

# 光市医師会報

昭和57年 3月発行

No. 114



亀田 健先生作

光市医師会

## 医師会月間行事

### ◎定例理事会

2月12日(火) 7・30PM

光市医師会館

### ○報告事項

1. 県医師会、代議員、予備代議員の選出報告について
2. 県医、医師国保組合会議員選出方について
3. 光市医師会の役員改選等について県医への報告について
4. 同和地区、昭和57年度健康診査について保健所より依頼の件
5. 山口県医師会役員等の選挙及び周南三市医師会よりの役員候補推せんについて
6. 昭和57年度第二次救急医療業務の実施について(1月28日)
7. 第9回日本医師会病院学会総会参加について(伊藤出席)
8. 第5回プライマリケア学会について
9. 協力貯蓄の山口銀行の融資契約変更について
10. 県医役員選挙の代議員会開催について
11. 昭和57年度中四国学校医大会の研究発表募集について
12. 山口県救急医療情報システムの運用状況通知について
13. 小・中学校の昭和57年度ツベルクリン注射及びBCG接種について
14. 学校医、予防注射等、周南三市医師

会の要望に対する光市の回答について  
15. 学校保健研修会開催について

### ◎協議事項

1. 2月度月例会、学術講演会の開催について
2. 予防注射出務等の報酬の今後の取扱いについて、特に医師会予算編入の可否と源泉徴集等の問題について
3. 従業員就業規則の制定について
4. 退職積立金の決算とその取扱いについて
5. 昭和57年度光市医師会事業計画の会員の意向について調査の件

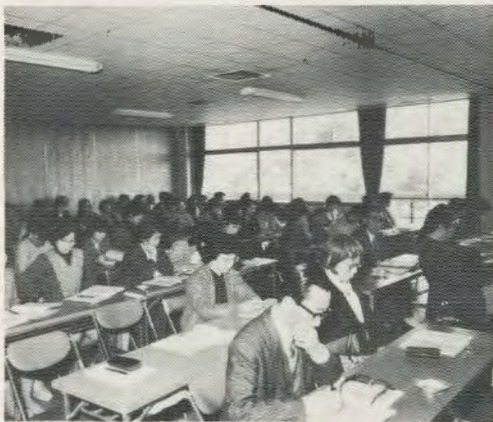
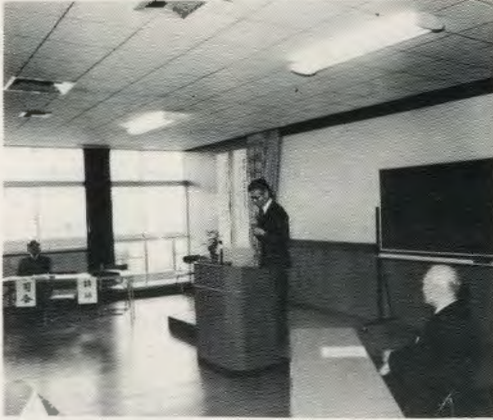
### ◎第32回山口県衛生学会 開かる

2月14日、日曜日、光市民ホールに於いて、武田薬品工業光工場診療所長、平岡恒郎先生を学会長として、230名の参加者で行われた。この学会は山口県下の産業医、衛生管理者、保健婦、看護婦など企業の衛生管理に従事している人々を対象に毎年行われている。特別講演は、山口大学医学部教授、酒井恒美氏の「有機溶剤中毒と健康管理」と、山口県産業医会長、吉村俊雄氏の「私の経験した労働衛生への対応」の二題と一般講演の8題。16時盛会のうちに終了した。

### ◎学校医研修会並に学校保健 研修会

光市医師会学校医部会が主催した上記研修会が、2月18日(木)午後1時30分より光市役所三階大会議室において、学校医、小・中学校長、保健主任、養護教諭、PTA役員等を対象として約60名の参加

を得て行われた。演題と講師は下記の通り。



(1) 学童、生徒の脊椎側弯症

講師 徳山中央病院整形外科

早川 宏 先生

(2) 学童の肥満児対策について

講師 下関市立中央病院小児循環器  
医長

永田良隆 先生

講演の後、質疑応答があり16時盛会  
に終了した。

◎学術講演会

2月23日(火) 7・30PM

松原屋に於て

演題 「消化性潰瘍治療の動向」

講師 徳山中央病院 内科部長

加藤展康 先生

後援 藤沢薬品工業株式会社

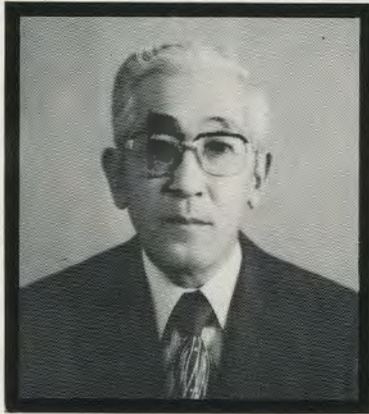
◎月例会

2月23日(火) 8・50PM

松原屋に於て

○報告事項

1. 県医師会役員選挙(2月28日)に  
関して
2. 学校医, 予防注射等出務手当の交渉  
経過報告
3. 2月18日、医師国民保健健康組合  
代議員会議報告
- ① 分娩給付金を従来10万円より20万  
円に改正
- ② 葬祭費の支給を5万円より10万円  
に改正する
- ③ 組合員の健康診断を配偶者にも拡大  
する
- ④ 保健料は据置
- ⑤ 組合会費は前年通り
- ⑥ 才入才出予算説明
- ⑦ 事業説明
- ⑧ 医師国保に対する補助金は昨年通り  
27%でそのまま
4. 届請求用紙は市役所か医師会事務局  
へ



## 謹 弔

亀田 仡先生

2月27日徳山中央病院において、急性肺炎のため逝去されました。つつしんで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます

故光市医師会理事 亀田 先生の

亀田 家 合同御葬儀並びに告別式  
光市医師会

亀田 先生の葬儀が、3月1日（月）午後1時より浅江公民館において行われました。暖いお人柄で親しまれ、信望厚い先生の冥福を祈るために公民館の外にまであふれる人垣の中でしめやかに進められました。葬儀では、県医師会長、光市医師会長、光市長等の亀田先生の死を悼み、御冥福を祈る切々とした弔詞に涙ながらのお別れになってしまいました。

## 弔 辞

光市医師会長 大野 宗二

亀田 先生、漸く春のきざしの感じ、満物生気にめばえる季節にあたり、私達の親愛なる光市医師会会員であり、親しく友人である亀田先生に、永遠の御別れの言葉をのべなければならぬことは吾々会員一同断腸の思いであります。こみあげる涙をこらえつつ、御霊前にぬかづき慎しんで御別れの御挨拶を申し上げながらも、今なおあな

たの御死去を信じえない気持ちです。先生は明朗闊達の御性格で、何人にも敬愛され、尚外面には出されなかったけれど絵画に親しまれる等、繊細にして心の優しい御人柄でありました。あなたの御人格は光市医師会の会員相互の協調と調和に、どれほど大きく貢献されたあ計り知れないものがあります。今さらながらあなたの存在の大きさを感じ、何か心中に大きな穴のあいた感じがいたしてなりません。尚、あなたは十数年の永きにわたり光市医師会の理事として困難な医師会の業務に盡瘁されました。

責任感の強いあなたは、時には自己を犠牲にしてまでも医師会の御仕事に努力下さいました。適切なあなたの御助言、御意見が如何程医師会の円満な発展の為に役立って来たか計り知れません。

亦、長きにわたって光市民の皆様地域の皆様と生来の優しくて明朗な御性格を以って親しまれ地域医療に貢献されました。地域の人々もあなたの御死去に対し如何程、悲しまれておられるか知れません。あなたは昨年八月頃声がかれると、おっしゃって

おられました。然し十月の光市医師会の体育大会に出席されバレーボールに参加される等なお元気でありました。十二月中頃より発熱され、十二月九日入院のやむなきに至りましたが、二ヶ月間の入院後退院され自宅療養に専念されておりました。二月二十日に御宅に御見舞に参りました時は、四月から診療する積りだと元気でおっしゃっていたのに、突如して病状悪化、二月二十六日再入院され、主治医、友人の懸命の治療も及ばず、二十七日午後三時遂に不帰の人となりました。五十四才の若き身を以ってこれからと云う時に不帰の客とされた事は運命と感ずるには余りにも悲しいことであります。御家族の事もさぞ御心配であったでしょう。一家の支柱を失なわれた御遺族の苦衷を想いますとき御なぐさめの言葉もありませんが、先生御安心下さい。吾々医師会員は総力あげて、あなたの御遺族を御守りする事を誓い申しあげます。先生安らかに御ねむり下さい。

つつしんで御霊前にぬかづき、心から御冥福を祈りあげます。

さようなら 亀田先生。

## 亀田君を偲ぶ

竹中 昭二

亀田君が逝った。昭和57年2月27日亀田君が逝った。彼を愛するすべての人々の慟哭の声をあとにして……

昨年夏頃、病的症状(嘔声)の発現以来いづれ此度の様な悲しみに遭わなければならぬと覚悟はしていたが、こんなに早く事態が進行するとは夢にも思っていません

でした。

彼とは学生時代からの親(悪?)友で、教室は違ってはいたけれども、お互いに「おい竹、おい亀」といった様な仲で、冒頭のように「亀田君」とでも呼ぼうものなら「おい、おかしな云い方をするな。」と、いう声がこの耳に聞こえて来る様な気がする。でもあの声も、永久に聞けない、何という悲しみであろう。

彼は昭和32年、光市民病院に広大第1外科より出張赴任し、その後、昭和38年現地に開業、以後光市医師会理事にも選任され、人望家であった 同時に仲々愉快的な男で、色々なエピソードに富んだ人物でした。

頭の白いことを気にして居たらしく、頭の黒いT君、W君等と一緒にバーへ飲みに行くと、(私自身白いけれども彼よりは、少し程度が軽いと自負している)いつもママやホステスに向って「今日 こゝへ来とる奴は、皆同期じゃけんのう」と強調しておりました。

最近の思い出の庄巻としては、昭和55年、光下松産婦人科医会で、山口県産婦人学会を引き受けた時の彼の手品の妙技です。

当時、大会準備委員長として種々御苦勞された伊藤先生と、学会終了後の懇親会のアトラクションの件について非常に困った時、亀田君に手品の披露を頼み込みましたが、仲々承知して貰えず「松本」を奢るからという条件をつけて、出演を承知させました。

当日は司会兼助手として富恵先生、歯科の守田先生も同道されて、玄人はだしの名

午前中の診察を止めて、出掛けました。既往に、TBのある彼のBRUSTの精査が目的で。彼の方は、古い傷でまあまあ大丈夫でしょうと云われたものの、私の方は、食道に瘻孔があると云われて、耳鼻科に送られ、ゲエゲエと、食道鏡をやられ、生検を取られ、その挙句、大丈夫と放免されました。彼の手に考え出した診察も、私が主になった様な恰好でした。彼のXPから一応、抗生物質を使用して、当分、様子を見る事になりました。

それ以来、ゴルフは禁止、夜のお遊びも制限と云う事を約束させました。理事会の終わった後、一寸一杯に「俺も連れて行け」と云われるのに、「水割一杯だけだぞ」と云って、連れて行ったのを思い出します。

8月の縁友会ゴルフ旅行で、嬉野温泉に行く事になりました。此の頃から、嗄声が出てどうも痰がかり、うまくしゃべれないと、こぼしていました。ゴルフをやらざる有田焼を見物するから、是非、連れて行けとの事で、彼を同伴しました。前夜祭に、少しばかり酒の入った彼は、嬉野の夜の街へ出掛け、ヌードスタジオで、素晴らしいのを見たぞと帰って報告していました。実は、私は彼とその様な場所に出掛けると必ず肴にされるので、なるべく遠慮していたのです。10数年前でしょうか、学会か、ゴルフ旅行か、定かではありませんが、一杯飲んだ勢で、ヌードを見に行きました。旅の恥はかき捨て、と云うわけです。スタジオで満員の人をかきわけ、かぶりつきの空席を見つけて、「おーい、富恵、此処が空いてるぞ」と大きな声を出して、手招きをし

て私を呼ぶのです。体裁が悪いのを我慢して、かぶりつきで眺めた事を思い出します。その後、酒の席で、「富恵の奴、俺が声を出したものだから、恥しがって」と自慢気に喋っては、酒の肴にされました。本当は彼は「俺は遊び人だぞ」とぶって見たのだと思います。家内にも黙って居りましたが、光医師会の名誉の為に、ヌードを見に行った出来の悪い男は、亀田君と私ともう一人位のものであった事を公表して置きます。嬉野でゴルフも出来ず、独り焼物を購って町を歩いた彼は、何を考えていたかと、不憫に思います。

9月中旬になっても嗄声が取れないので再び、徳山中央病院の岡本先生の所へ行き、耳鼻科の尾中先生に紹介されました。BRUSTのXPでは、変わった所見は無く、耳鼻科で声帯の麻痺があり、脳動脈硬化によるものであろうとの返事を貰った様です。電話で「俺も遂に老人の仲間入りで、動脈硬化と云われた」と笑っていました。嗄声は頸椎に関係無いかとXPも撮りました。その後、嗄声は、一進一退で、スタンドで飲むと、軽くなるし、喋り易くなると話していました。淋しがり屋なのでしょうか、理事会の後、一寸交際つてやろうかと、スタンドに附いて来て一杯の水割りで、喋って居ました。

此の頃、で「亀田先生は、KEHLKOPFのKAで入院した」と噂が飛び交いました。

11月末頃から、発熱、食欲不振を訴えました。どうも悪寒があり、熱が下らないとの連絡で、往診に行きXPを撮りました

所、肺門部にTUMORを認め、それがK AVERNE様に変化しているのを確かめました。白血球は22000、抗生物質を投与、翌日、TOMOを撮り、TUMORの精査を行いました。発熱が続くので、亀田君は、広大時代の友人、神尾先生（国立療養所の医師）と連絡を取り、診て貰う手はずを整えました。私もそれに賛成、亀田君の一番良い方法を取る様にすゝめました。神尾先生は、広島まで、出て来るのは大変だから、同じ国療系統の柳井病院で落ち合い、そこに入院の依頼をして居た様です。彼はびっくりして、居合せた松前先生に相談した所、神尾先生に頼まれたがXPから、悪性化するかも知れないので、徳山中央病院の岡本先生を紹介する旨、云われた様です。亀田君は、慌てゝ私の所へ電話をかけて来ました。「松前先生から徳山中央病院へ紹介すると云われたが、お前から頼んでくれ」と云って来ました。私は、「頼んでやるが、広大の方が友人が居って良いのではないかと念を押しましたが、彼は近いから是非頼んでくれと云って来ました。早速、松前先生に電話した所、間違いなくLUNGEのKAだと。慌てゝ岡本先生の所へ、電話した所、今、松前先生から電話を貰ったが、KAVERNEの壁の凹凸が気になっていたのだがと、云って居りました。

12月10日朝、亀田君を車に乗せて、徳山中央病院に入院させました。5000Rの照射と併せてMETT療法を予定だと、岡本先生は話して居り、その日行った、BRONCH-FIBERでは、CARINAの所にTUMURがあり、生検で、PL

ATTEN-EPIITHEL-KAである事が判明しました。

入院生活が始ったものの、METTの使用で、食欲が無く、朝夕の点滴も、アミノ酸の臭いがすると吐気を催すとかで、段々減量、METTの使用も中止しました。医者なので岡本先生も遠慮したのでしょうか。

嗶声も僅かに軽快して来た様で、土、日は外泊の許可も出て、正月は、29日から一家水入らずで過した様です。

岡本先生から、奥さんに、KAである事を話すから、正月の間に、それとなく、匂はせてくれと、電話を貰い、奥さんにどうも、肺門の病巣は、段々と悪性の像を経している事を伝えて、長く生きる事が難しいのではないかと、説明しました。矢張りはっきりと云われたので、ショックを受けた様でした。

亀田君自身も、医者として99%、悪性のものを考えたでしょう。併し、人間なら俺だけは違うと思ったのではないのでしょうか？。1%位、或は、それ以下かも知れませんが、自分だけは、大丈夫と夢を抱いたのではないのでしょうか。今でも私は、その様に考えています。

岡本先生から、奥さんにはっきり告げ、書いた診断書も「悪く書かないと、給付金が貰えませんか」と真実を宛かも嘘の病名であるかの如く説明をして、芝居をしてくれました。

何か一つの希望をと云う事で、5月の連休に、永年の夢であった、シンガポール行を企画しました。竹中君の介助で、気心の知れた仲間と、のんびり旅行をしようと言

合いました。行けないだろうと思いつゝも友人として望みを与えて、元気をつけてやり度かったのです。楽しそうに、土産の話をしていました。

1月末に、放射線治療の終る亀田君は、退院させて貰える様、頼んでくれと云い出しました。丁度、娘さんの受験に一致したもので、肺炎の恐れがあるからと誤魔化して貰いました。退院を反対すると「狭い牢獄の様な病室の生活には、もう耐えられない」とぼやいて居ました。

それでも2月9日まで辛棒、10日に退院しました。11日に、亀田君の顔を見に行きました所、「どうも食欲が出ないし、体が倦い」とこぼしていました。見舞に行く度に、食欲不振を訴えていました。

退院後、1週間して、徳山中央病院へ、出掛けて検査をした様です。私も、岡本先生に御礼旁々、今後の処置の相談に出掛け、X Pを見せて貰いました。肺門部の病巣は、余り変って居らず、反対側の転移巣は空洞化して居り、只、左下肺野の繊維化が、やゝ軽快しているだけでした。貰った薬も、飲んだり、飲まなかったりで、「飲むと、食欲が無くなるから」と、云われると、怒るわけにもいかず、「なるべく飲めよ」とすゝめるのが精一杯でした。

呼吸逼迫や頻脈があると云うので、岡本先生に連絡した所、レントゲンによる心筋障害を考えて、心電図を撮る様に、頼まれました。2月18日、私の家で、心電図を撮り、点滴を行い、隔日に、点滴に来る様にすゝめて置きました。その時、胸に聴診器を当てた所、左側は、呼吸音が弱く、お

かしいと思いつゝも一週間前のフィルムから、悪化しているとは考えませんでした。外来で、知っている患者に、痩せた姿を見せ度くないと云う彼の気持を汲んだばかりに、レントゲンを撮る機会を失った事を残念に思います。翌々日は、もう倦くて、動けないとの連絡があり、点滴のボトルを持って、彼の家へ出掛けました。

飯が全然入らないから、アミノ酸剤をくれと云うので、エレンタールを渡して置きました。適当に、ジュースに溶いて飲んでいた様ですが、「余りうまくないし、胃にもたれるし、下痢をする」と云い乍らも、分けて飲んでいました。どうしても元気になるのだと云って、飲み難いエレンタールを我慢して、飲んでいる姿が痛ましく思い出されます。岡本先生から「白血球が8000に増えているのが気になるが」と電話がありました。

翌24日、朝、点滴に行った際、「お前熱があるのではないか」と尋ねました。「そう云えば、夕方、少し熱はい」との返事でした。夕方、娘さんから電話で、悪寒と熱が39度あると連絡して来ました。矢張り肺炎かなと思いつゝ、婦長に、スルピリンとセボランの注射をさせました。念の為に白血球を計ると13800に増えていました。再び7時頃、電話があり、熱が下って、うどんを食べているとの連絡がありました。

私は、後事を竹中君に頼んで、大津の学会へ出掛けました所、26日朝早く、竹中君からホテルに電話がかゝり、25日の夜半、呼吸困難で、酸素吸入をしたとの連絡

です。直ちに入院させる様に頼んで、徳山中央病院へ、ベッドの準備を御願いました。昼頃、竹中君に連絡を取った所、入院して、X Pを見ると両側肺野とも、広範囲に浸かされている肺炎の為の呼吸困難だと判明しました。学会を、早めに出て、10時に徳山駅に着き、病院を尋ねました。岡本先生、福山先生の二人が待って居て、X Pの説明、治療の経過を、話してくれました。病室では、鼻腔カテーテルで、酸素吸入をし乍ら、苦しそうに呼吸している亀田君の姿を見て、「おい頑張れよ」の声しか、かける事が出来ません。一時間余り居て、帰宅した所、朝4時頃、亀田君の奥さんから「富恵を呼べ」と云っているとの連絡で又、竹中君と二人で、駆けつけました。「看護婦も、誰も来てくれない」と苦しい息の下で喋っていました。心細かったのでしょう。唯「頑張れよ。今日が過ぎると薬が効いて、楽になるから」と励まし続けました。苦しかったのでしょうか。どうかして欲しかったのかも知れません。

午後3時30分頃、岡本先生から「駄目だった」と電話があり。車で、飛んで行きました。

やつれた亀田君の死顔を見ると涙が止りません。友人として、情に流され、行った処置が、彼の死を早めたのではなかろうか？。医者として、為す術のない病気とは云え、まだ他に出来る事が有ったのではなかろうかと、悔まれてなりません。金輪際、友人の主治医は、お断りする事に決めた次第です。

最後に、亀田君よ、もう呼吸困難に苦し

められる事もないだろう。天国で、禁止されたゴルフを思う存分楽しみ、制限された水割を飲み乍ら、カラオケを歌ってくれる様に!!

合 掌

## あ と が き

なんといっても、さびしい!



発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社